

【2年】

○=よい点 ●=課題

国語	
■児童の状況	<p>○漢字の学習に意欲的に取り組んでいる。習得には個人差がある。</p> <p>○教師の板書と合わせて、ノートに書くということができるようになってきた。</p> <p>○読書は好きである。物語のほか、図鑑などを読んでいる児童も多い。読み聞かせもよく聞いている。</p> <p>●一文字ずつしか読めない子、行がずれてしまう子など、音読がたどたどしい児童が一定程度いる。</p> <p>●思いはあっても、書けない、書いても意味が通じない文になってしまう子が一定程度いる。</p> <p>●自分の思いは伝えようとするが、相手の発言を聞く、受け入れることについては個人差がある。</p> <p>●順序立てて話したり書いたりすることが苦手な児童が多い。</p>
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力が身に付くような教材の工夫 ・相手の発言を受けて、話をつなぐようにする場の工夫 ・自分の考えや思いを、明確に分かりやすく話す場の設定 ・書くことへの苦手意識を、軽減するような教材の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・習った漢字を文章の中で使えるように、作文指導をしていく。 ・読む行以外は隠すなど読ませ方の工夫をして、音読する抵抗をなくす。 ・自分の考えや思いを、少人数で伝え合ったり発表したりする場面を多く取り入れる。 ・友達のことを聞いて良いと思った事柄は自分のノートに書き足していく活動を取り入れ、表現を豊かにする。 ・「自分だったら」という視点で、短い文章を書く機会を多く設け、書く意欲を向上させる。 ・書くことが苦手な児童に対しては、手本を示したり、穴埋めワークシートを準備したりするなどして、抵抗感を軽減する。

算数	
■児童の状況	<p>○課題に対して、諦めずに取り組もうとする児童が多い。</p> <p>○ものさしを使った学習に興味をもって取り組む児童が多い。</p> <p>●足し算、引き算の筆算に取り組んでいるが、繰り上がり・繰り下がりの計算の定着は不十分である。</p> <p>●児童によって知識、技能の定着度に差がある。</p> <p>●文章題から加法か減法かを考え、立式することを苦手とする児童がみられる。</p> <p>●時刻と時間の理解、及び量感覚が乏しい児童が多い。</p> <p>●解法を推論し、考えを書き、伝え合う経験が乏しい。</p>
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化された学びの充実 ・知識、技能の定着 ・実体験を伴う、量感覚を養う指導の工夫 ・文章問題の正確な読み取り方の指導 ・学んだことを活かし、解法を考え、伝え合う活動の充実

■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・電子ドリルなどを活用し、個にあった課題に取り組ませる。 ・児童の興味・関心を引き出すために、児童が日常生活で体験したことがあるものを導入として取り入れる。 ・日常生活の中で時刻、時間、量感覚に関する問題を出し、生活に密接して考えさせる。 ・文章問題を音読したり、キーワードに線を引いたりさせることで、文章の内容を正しく理解させる。 ・交流支援アプリ等を活用し、考えを書き、伝え合う経験をさせる。
------------------	--

生活

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○上級生として、1年生に教えることに意欲的であり、活動を通して自分の成長に気付くことができる。 ○身近な自然に関心をもち、季節ごとの変化に気付いて記録している。 ○図鑑を使って、興味のある植物や昆虫を調べることができる。 ○意欲的に、植物の栽培や観察をすることができる。 ●何を調べたら良いのか、どう取り組んだら良いのか、自力では考えつかない児童もいる。 ●気付きの深さや、振り返りなどでの表現に個人差がある
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・追究したいと思える学習活動の設定 ・試行錯誤をしたり、繰り返したりできる場や時間の設定。 ・気付きを深めるための、より分かりやすい視点の提示。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験から、より深めたいことを見つけ、意識付けをさせてから、さらに活動を深めていけるよう単元の計画を立てる。 ・他児童との関わりや全体の場でのまとめからよい取組みを真似させたり個別に聞き取ったりして、言語化できるようにする。 ・植物の観察等の時には視点を確認するだけでなく、その方法も実際に見せて確認する。(大きさの測り方、詳細に観察したいところを拡大して描けるワークシートの使用)

音楽

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や友達の歌声に興味をもち、友達と楽しんで歌っている。 ○曲のリズムによって手足や体を動かして拍子を感じている。 ○好きな曲を見つけ、様々な曲を聴くことを楽しんでいる。 ●声を出すことや、伴奏を聴いて声を合わせて歌うことが難しい児童がみられる。 ●鍵盤ハーモニカの指使いが定着していない児童、リズムをとることが難しい児童が見られる。 ●リズム打ちや全身を使っでの表現活動に難しさを感じている児童が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じ取りを深めたり、思いを膨らませて表現できるようにするための歌の指導の工夫 ・鍵盤ハーモニカの息づかいやタンギングの指導方法、及び、家庭での取りみ方の提示の工夫 ・鍵盤ハーモニカを弾くときの指の置き方や正しい指使いを身につけさせる指導の工夫 ・拍を感じ取ってリズムを打つことが困難な児童への指導の工夫

■授業改善に 向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・手で音階の高さを表しながら歌ったり、互いの声を聴き合って良さを見つけたりする。 ・難しい指使いやリズムは、段階的に身に付けられるよう、易しくした弾き方を用意して、少しずつ体得させる。 ・指使いを一人一人正しく指導する時間を設ける。 ・教材を児童が関心をもてるように準備・工夫する。 ・友達のよい動きを見たり、真似したりすることでリズムに合わせて体を動かすことができるようにする。
----------------------	--

図画工作	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○絵を描いたり、粘土で工作したりする活動を楽しんでいる。 ○友達の作品のよさや面白さを感じることができる。 ○自分の発想を形に表すことを楽しむ児童が多い。 ●つくりたいものの構想をもてていない児童がいる。 ●材料や道具の特性を十分に生かすには至っていない。 ●色を塗る、はさみで切る、のりを付ける等の手を使う基本的な活動の技能に個人差が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・土、砂、小石、木の葉や木の実など、身近な自然物を材料にした活動の充実。個人で使える十分な道具の確保 ・道具の特性について学ぶ時間の確保 ・自由創造活動が進まない児童への対応
■授業改善に 向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書や動画教材を活用したり、ポーズや姿態のイメージを共有したりすることで見通しをもって制作できるようにする。 ・作業に取りかかる前に、自分のかきたいものや作りたいものを考え、言葉や簡単な絵で表す時間をとる。 ・はさみやのりの使い方を、図工だけでなく各教科で使う場面を活用して繰り返し丁寧に指導する。

体育	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○休み時間等は、積極的に体を動かし外遊びを行っている。 ○体を動かすことを楽しんでいる児童が多く、初めて経験する活動にも意欲的に取り組もうとする。 ○楽しんで鬼ごっこなどのゲームに取り組める。 ●体幹が弱く、バランスが悪い動きや走り方をする児童がいる。 ●勝ち負けなどにこだわって、友達と仲良く遊べない児童がいる。 ●運動の種類によって、経験不足による得意不得意の差が大きい。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験の個人差を補う体験学習の工夫 ・ルールの明確化や適切な態度の指導 ・安全に気を付けて運動することや、よい動きができるよう運動の仕方を工夫するような指導の工夫 ・感染予防の制限の中で運動量を確保する指導の工夫
■授業改善に 向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動感覚を経験し、身に付けられるよう、運動内容や場の工夫をする。 ・体幹を強化するために、遊具などを活用して、自分の体を支える・回る・ぶら下がる・登るなどの活動を多く取り入れる。 ・○○ごっこなど、ゲーム感覚で運動に親しませる。 ・成功体験を増やし、運動の楽しさを感じさせる場を多く作る。